

1 研究テーマ

自治的活動のできる学級をつくるための生徒の自尊感情の育成

2 はじめに

近年所属校では、地域社会の価値観の多様化、幼少期の人間関係づくりの経験の少なさ、特別に配慮を要する生徒の増加、そして自尊感情の低さなどから、人間関係をつくる力の弱い生徒や問題行動を繰り返す生徒が増えてきている。そこで、生徒指導の教育的予防（生徒指導リーフ Leaf.5 国立教育政策研究所）の観点から「自治的活動のできる学級づくり」を行いたいと考えた。

3 研究目的

集団の発達段階に  
応じた  
**教師の働きかけ**

**自尊感情  
の育成**

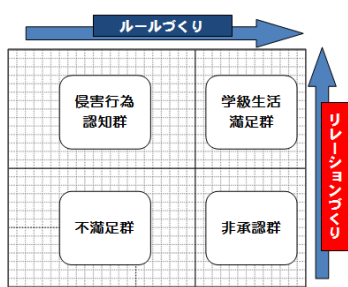
**自治的活動のできる学級づくり**  
○自分たちで目標を共有できる  
○自分たちで目標達成のために役割の遂行ができる

**本校の課題解決**  
○人間関係をつくる力が高まる  
○トラブルが起きても、自分たちで解決に向かえる

4 研究内容

(1) 基礎理論

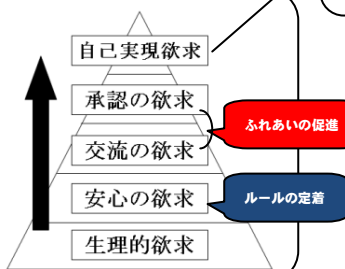
「まとまりのある親和的な学級になるためには、学級に『ルール』と『リレーション』の2つの要素が同時に確立していることが必要条件です。」  
河村茂雄 (2006)



「『健全な自尊感情』を獲得することで、**自己実現の意欲**をもち、共生の態度を身につけ、自己を生かす能力を発揮することができる。」杉田洋 (2015)

- 自尊感情を以下の4つに分類して考える
- ・自己好意感…自分にはいいところがある
- ・自己存在感…自分には居場所がある
- ・自己有用感…自分は役に立っている
- ・自己効力感…自分はやればできる

「マズローの仮説を学級集団に当てはめると、『まずはルールの定着、続いてふれあいの促進』という指導・支援の順序性も示唆されると考えられます。」  
曾山和彦 (2014)



「マズローの欲求階層説」…『人間は自己実現に向かって絶えず成長する生きものである』として、人間の個人の欲求を5段階に整理し、下層の欲求が満たされてから、順番に上層の欲求が出てくるものであると理論化したものである。

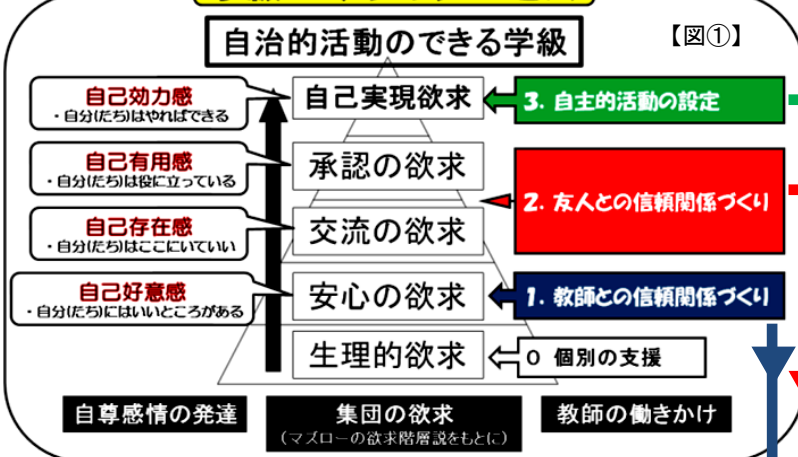
《仮説》

学級集団が発達する過程とは、子どもの欲求段階に応じて「教師の働きかけ」を行い、生徒が自尊感情を高めていく過程である。(図①参照)

(2) 対象

琴浦町立東伯中学校  
第3学年A組(仮称)【29名】

**学級づくりのプロセス**



(3) 各段階において自尊感情を高めるために、次の取り組みを行った。

①自己好意感を高めるための、教師との信頼関係づくり

「I (アイ) メッセージ」を意識した声かけ

- ・意図的に生徒へ声をかけ、コミュニケーションを増やす。
- ・「日記」のやり取りも重要である。



②自己存在感、自己有用感を高めるための、友人との信頼関係づくり

「ありがとうメッセージ」の交換

- ・生徒同士が感謝の言葉をカードに書き、伝えていく。



GE「四面鏡」の実施

- ・お互いのよいところを認め、伝え合う活動である。

☆友だちに伝えよう☆

自分の名前 \_\_\_\_\_

☆いいところ☆	書いてくれたメンバー			
	さん	さん	さん	さん
☆しっかりしている!				
☆公平な!				
☆責任感のある!				
☆意志の強い!				
☆もの知りな!				
☆すずい感性の!				
☆てきぱきした!				
☆笑顔がステキな!				
☆誠実な!				
☆思いやりのある!				
☆落ち着いた!				
☆素直な!				
☆あたたかい!				
☆さわやかな!				
☆なべり強い!				
☆ユーモアがある!				
☆正直な!				
☆情熱的な!				
☆親切な!				
☆人をひきつける!				
☆一生懸命な!				

生徒の「思いをつなげる」場面の設定

- ・生徒同士が思いや考えを伝え合う場を設定する。
- ・プラスの感情の交流はもちろん、本音の交流ができるように仕掛ける。

③自己効力感を高めるための、自主的活動場面の設定

活動の見通しを持たせる指導

- ・生徒の活動できる「時間 (期間)、場所」を具体的に示す。
- ・役割ごとに計画を立てさせる機会を設定する。



5 研究のまとめ

- (1) 生徒の自尊感情を高めることができた。教師の働きかけに一定の効果があつたことがわかる。
- (2) 日常生活の中でも、自治的な活動と考えられる場面が見られるようになった。これは、右下のグラフのように、「学級との関係」の得点の高い生徒が増加したという結果にも裏付けされる。

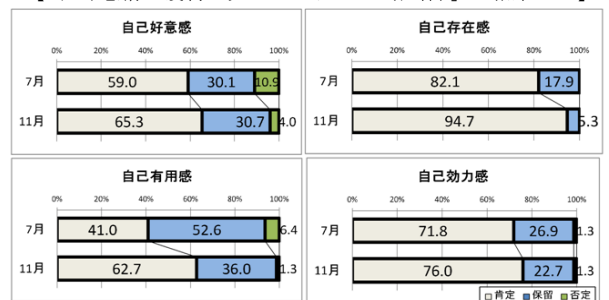
6 今後の課題

あらゆる活動に「自尊感情の育成」という視点をもって取り組むとともに、生徒に身につけさせたい「自治能力」を学校全体で共通理解し、中学校生活3年間を見通して段階的に力をつけたい。

7 おわりに

ある人は著書の中で「子どもを『自立』させるためには、子どもたちに『自前のエンジン』を詰めこまなければならない」と述べている。私は、そのエンジンの燃料とは「自尊感情」であり、エンジンの部品とは「自治能力」であり、そのエンジンを制御するものとは「考え、判断する力」であると考えている。今後も、子どもの「自立」に向けた指導を実践していきたい。

【「自尊感情の獲得を見るアンケート (自作)」の結果より】



【「hyper-QU 学校生活意欲尺度」の結果より】

